

令和5年度 学校自己評価表(報告)

学校運営計画				
学校運営方針	豊かな心を持ち、たくましさ育てる教育の推進と、自ら学ぶ意欲を育て、専門教育の基礎・基本を十分に身につけるとともに、地域や広く社会に貢献できる素直で他者を思いやる生徒を育てる。			
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標		
【成果】 新型コロナウイルス感染症が5類に移行したが、感染を最小限に止めるための対応を工夫しながら、修学旅行、体育祭、丘陵祭(文化祭)、クラスマッチ等の学校行事を行うことができた。また、1、2年生を対象とした現場見学、企業見学の実施や2年生全員を対象としたインターンシップを地元企業の協力の得て実施し、進路に対する意識の向上を図ることができた。学校生活の面では、特別な支援を必要とする生徒に対して、関係機関への連携等を行い、適切な対応、支援を行った。 【課題】 ①教科指導では、生徒の学習状況等を把握し、基礎学力の向上を図るための方策等の改善に努め、ICTを活用して課題や提出物提出がスムーズに行えるように工夫する。 ②電子黒板、タブレット端末等のICTを活用した授業を行い、生徒の理解や思考を興味関心を深める授業実践に取り組む。 ③生徒指導では、欠席・遅刻・早退を減らし、落ち着いた授業を受けられるように基本的生活習慣の確立を図る。 ④服装頭髪指導では、保護者の協力を得ながら、改善されるまで丁寧に取り組む。 ⑤進路指導では、早期から意識啓発を行い、保護者との話し合いを深める。また、夏期補習や面接指導をさらに充実させる。 ⑥保健保全では、手指消毒を励行し、体調管理を徹底するよう指導する。 ⑦本校の教育活動状況等をHP等を通して、地域や保護者等へ積極的に発信し、開かれた学校づくりを推進する。	規範意識の涵養と基本的生活習慣の確立	・徳性・品性、涵養のための講話、行事を実施する。 ・学校行事、生徒会活動、ボランティア活動への積極的な取り組みを促して、自主性、協調性を養成する。 ・部活動への積極的な参加を通して健康な心身を育成する。 ・規範意識を高めるために、職員全身体制で生徒の生活指導に取り組む。 ・生徒が常に人を思いやり、行動できる姿勢を育成する。		
	自ら学び、自ら考える力の育成と、基礎学力の向上	・基礎学力を定着させるための方策を強化し、朝学習・課題・補習等をより効果的に実施する。 ・自宅学習の習慣づくりを図る。 ・専門高校としての資格取得を推進する。		
	日々の指導を通じて、自他を尊重する態度と他者に伝える力を育てる	・相手の立場や周りの状況を考え、正しいネット社会のあり方を理解させる。 ・日々の挨拶や対面したコミュニケーションを大切にすると共に、プレゼンテーションを意識した授業等を実践し、他者に伝える力を身につけさせる。 ・生徒の悩み・変化を見逃さない観察・声掛けと積極的面談活動を実施する。		
	一人ひとりの着実なキャリア形成を進め、高い志を育てる	・計画的、系統的な進路学習を通して、生徒の進路に対する意識を高める。 ・進路指導計画を再点検し、効果的指導の在り方を探る。 ・キャリア教育を充実することにより、就労意識を確立させ、Employability(雇用される能力)を育てる。 ・四年制大学、短大については、指導を強化し、合格に向けて支援する。 ・地域創造工学科土木系生徒の就職・進学先を開拓し、全校生徒の進路希望を実現する。		
	地域の期待に応える、開かれた学校づくり	・公開授業、授業参観、出張授業を積極的に実施する。 ・商業科、地域創造工学科で学んだ成果を地域に向けてアピールし、地域イベント等との連携、交流を図り、地域の活性化に寄与する。 ・PTA活動の活性化を図り、保護者の協力・連携を密にする。 ・ホームページ・各種たより等による保護者や地域への広報活動を充実させるとともに、地域との交流を活発にする。 ・学校公開と情報発信、地域の期待に応える学校づくりに努める。		
	人権・同和教育を通じた思いやりのある人間づくり	・人権教育と同和教育に対する意識を啓発し、生徒一人一人が人権感覚を養う取組を行う。 ・学校生活のあらゆる場面を利用した人権指導を行う。 ・他者を思いやる心を育み、いじめのない学校づくりを目指す。		
	特別支援を必要とする生徒への理解と支援	・特別支援、適応支援教育に対する研修を積極的に行い、理解と実践力を養う。 ・情報交換会を実施し、情報の共有と職員間の指導、保護者との連携を養う。 ・特別支援、適応支援教育に関する外部支援員を積極的に活用し、生徒の支援に資する。		
危機に強い学校づくり	・実際に機能する組織体制をつくり、予防的対応を図る。 ・速やかな初動措置と迅速な情報伝達の実施を行う。 ・全教職員で情報を共有し、組織的に、一丸となって解決に向かう。			
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価
生徒指導	家庭や地域の関係諸機関と連携を深め、地域と教職員が共通理解のもと生徒指導を行う。	PTA活動や面談などを通じ、生徒指導方針の共通理解を得ながら、保護者との連携を図る。	A	A
		警察や教育相談機関、地域の関係者との連携を図り、必要に応じて情報交換を行う。	A	
		保健室や適応支援委員会と連携し、教職員の共通理解のもと、指導を行う。	B	
		特別な指導が必要な生徒に対して、組織的に継続的な指導を行う。	A	
	生徒の基本的生活習慣の確立を図るとともに教育相談の充実を図る。	教職員全員の巡視計画を立案し、定期的な登校指導や校外指導を行う。	B	B
		年間を通して、各学年、クラスで服装・頭髪等に関する指導を徹底し、定着を図る。	A	
		校内外における携帯電話等に関する指導を徹底する。	B	
		保護者との連携を密にし、無断欠席や遅刻等の減少に努める。	A	
	交通安全意識の喚起と向上を図り、交通違反や事故を防止する。	交通安全講話を実施し、交通安全意識の喚起と向上を図る。	B	B
		街頭指導により、交通マナー及び安全運転を徹底する。	B	
警察署・自動車教習所と連携してバイク実技講習会を実施し、交通マナー・ルール・運転技術の向上を図る。		A		
自己と社会との関わりについて考察させる機会を増やし、将来社会を支える気概を育成する。	積極的な情報提供に努め、交通安全意識の向上を図る。	B	B	
	進路情報を充実させる。	B		
	進路情報を充実させる。	B		
研究・研修	研修、教務、教科、学年間の連携を強め、わかる授業のための研修を充実させる。	地元地域より企業現場の方を招聘して講演会を実施する。	A	B
		業者テストを活用し、自己理解・適性理解を図る。	A	
		ホームルームを活用し、「進路の手引き」を利用した進路指導を行う。	B	
研究・研修	教科内による検討会を綿密に行い授業の充実を図る。	「進路だより」の発行し、様々な進路情報を生徒・保護者に提供する。	B	B
		担当教科を越えた相互授業参観を積極的に実施する。	B	
		学年会議を定期的に行い、連携を強める。	A	

評価項目		具体的目標	具体的方策				
教科指導	商業科	全般	産業経済界に貢献できる人材の育成を目指す。	わかる授業により基礎・基本を継続的に指導し、商業に関する各分野についての知識と技術を確実に習得させ、ビジネスの様々な分野で活躍できるよう、ビジネスマナーの習得、マーケティングや法律についての知識や考え方を身に付けさせる。	A	A	A
		情報分野	情報処理に関する分野についての知識と技術を習得させ、企業の情報処理担当者として適切に対応するための能力と態度を育てるとともに、進学にも対応できる生徒の育成を図る。	学期・学年ごとに資格取得など具体的な目標を設定させ、自主的な学習活動を通して生徒の目標が実現するよう指導していく。	B	B	
			基礎基本を踏まえながら実習を多く取り入れ、主体的・実践的な態度を養う。	B			
		会計分野	簿記・会計に関する分野についての知識と技術を習得させ、会計実務担当者として適切に対応するための能力と態度を育てるとともに、進学にも対応できる生徒の育成を図る。	学期・学年ごとに資格取得など具体的な目標を設定させ、自主的な学習活動を通して生徒の目標が実現するよう指導していく。	B	B	
		流通分野	流通に関する分野についての知識と技術を習得させ、企業活動の各種業務に適切に対応するための能力と態度を育てるとともに、進学にも対応できる生徒の育成を図る。	ビジネスの様々な分野で活躍できるよう、実社会に即した知識・技術を身に付けさせ、実践的・創造的な態度を養う。	A	A	
	地域創造工学科		工業技術の基礎・基本を重点的に学習し、実験・実習を通じて機械・電気・電子・土木等の幅広い分野に対応できるように知識・技能を身に付ける。	各種資格試験の案内を行い、資格取得に力を入れる。	B	B	
				実習でいろいろな工作機械の構造・安全な操作、適切な操作を覚える。	A		
				工場見学で実際の現場を見る。	B		
				民間講師の講話から実際の現場、社会人としてのマナーを学ぶ。	B		
				工業科目について、知識・計算の基礎力をつける。	A		
				作品づくりを通して、ものづくりの基礎的技術と知識を学ぶ。	A		
				建設に関する基本的な知識・技術を身につける。	A		
	普通科目	国語	基本的な読み書きの力、表現力を付ける。	適切に読書の時間を確保し、生涯本に親しむきっかけを作る。	C	B	
				小テストなどを利用し、基本的事項の定着を図る。	B		
				課題を定期的に提出させ、家庭学習や学習内容の定着を図る。	B		
地歴公民		各科目の基本的な知識を習得させ、現代社会の動向や自らの生き方と関連づけて考える力を育む。人権を尊重する意識を養うため、各科目の授業展開を工夫する。	問題演習等を活用し、基本的な知識の定着を図る。	B	B		
			社会的事象への関心を高めるため、新聞資料などの活用を図る。	A			
数学		適切な教材選択と、自主学習の機会を充実させ、計算力の向上と基礎学力の定着をはかる。	定期考査ごとにテスト学習用プリントを作成し、提出させることで、自主学習の機会を与える。	B	B		
			長期休業中に課題を出し、学習の定着をはかる。	B			
			生徒の実態に即した教材を選択し、指導の際には具体例の提示と丁寧な説明をおこなう。	A			
理科		実験・観察などを通し、自然の中にある原理を科学的視点から探究する能力や態度を養う。	科学と人間生活…生活の中にある現象を科学的な視点で理解する。	A	B		
			物理基礎…様々な現象も単純な原理の組合せであることを理解する。	B			
	化学基礎…身近な物質や現象法則を定量的に理解する。		C				
	生物基礎…ヒトと身のまわりの生物との相互関係を理解する。		C				

評価項目		具体的目標	具体的方策				
教科指導	普通科目	英語	基本的な能力を養う。	学習プリントを活用し、基本的事項の定着を図る。	B	B	B
			資格取得を目指す。		B		
			積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	言語や文化に対する理解を深める。	B		
				ALTとの授業に積極的に参加する。	A		
				自分の考えや気持ちなどが相手に正しく伝わるように英語で表現する。	B		
		保健体育	積極的に体を動かし、様々な動きを理解することでケガの予防や健康の保持・増進を図る。	体ほぐしを中心に、運動の楽しさを教える。	B	B	
				スポーツテストやロードレースを実施することで、不足している体力を把握しその向上を図る。実技種目は2・3年生で同一種目を継続し、生涯スポーツにつなげる。	B		
			スポーツを通して、ルールの大切さを教えると共に、社会生活において規範意識を身に付けさせる。	ルールを理解し、ルールを守った活動をさせる。また、お互いが安全面に留意した活動をする。	A	A	
				チームプレーを通してコミュニケーション能力の育成や、リーダーシップのとれる人物を育成する。集団行動・チームスポーツを通じて、協調性・協働性を養う。	A		
				時間厳守をはじめ、体育授業時の約束事を守らせる。	B		
	健康に関する知識・理解を深める。	将来の自分を見据え、今自分に足りないものは何かを考え解決する力を養う。	B	B			
		授業内の説明やアドバイスによって、自分の現状や認識が正しいのかを理解させ、現状に見合った修正を図る。	A				
	家庭	各分野における知識と技術を総合的に習得し、生活課題を主体的に解決すると共に、よりよく生きるために必要な力を身に付けさせる。	被服分野…材料、製作、管理の知識と技術を身に付けさせる。	A	A		
			食生活分野…健康で充実した食生活を送るための知識と技術を身に付けさせる。	A			
			保育、高齢者分野…体験実習等を通し、人とかかわりを大切にする気持ちを育む。	A			
			家族・家庭、消費、住生活分野等…将来を見通し、自立できる力を養う。	B			
	人権・同和教育	人権を尊重し、差別のないよりよい社会を実現する態度を養う。	生徒に対して同和教育を基軸とした人権教育の年間指導計画や全体・学年別の学習目標を立て、それに基づいた人権教育を実施する。	A	B		
			教職員には同和教育を基軸とした人権教育を実施するため、各種研修会に参加し、職員全体での共有し、人権感覚を培い生徒の指導にあたる。	A			
			教職員の人権教育をテーマとした校内研修会を実施する。	B			
			男女平等やLGBT等に関する教育を実施する。	B			
特別活動	学校行事	学校行事を通して、好ましい人間関係を育成する。	学校行事、生徒会活動への積極的参加により、規範意識を養い良好な人間関係を育成すると共に、人格形成に役立てる。	A	A	B	
	LHR	基本的生活習慣の確立。人間としての「生き方・あり方」に関する指導。	基本的生活習慣の確立を図る。	B	B		
			進路学習を通して、将来の自分について、しっかりと考えさせる。	B			
	部活動	部活動の活性化を図る。	部活動加入率を上げ、活気ある学校を目指す。	C	B		
苦楽を共有することで、人間関係、信頼関係を築く。			B				
家庭との連携	学校・家庭・地域と連携を深め、開かれた学校づくり、保護者参加型活動の実践を図る。	学年PTAによる学校と保護者との連携を深める。	B	B			
		体育祭・丘陵祭等学校行事への保護者・地域の幼稚園の参加を通して開かれた学校づくりを図る。	B				
		PTA会報を発行し、学校と保護者との意思疎通を図る。	A				
地域との連携	地域で行われる行事などに参加し地域に貢献する活動を行う。	地域のイベントや行事等に積極的に参加する。また、通学路清掃等を行うことで地域に貢献する活動を行うとともに、地域と連携した活動に取り組む。	A	A			
		小・中学生の学校見学や体験学習での指導をとおして、本校生徒に学習意欲や自立心を高めさせるとともに、地域貢献の大切さを感じさせる。	B				
成果	今年度も継続して1・2年生を対象とした職場見学、企業見学の実施、2年生全員を対象としたインターンシップの実施等、地域と連携した取組を実施したことにより、進路意識の向上を図ることができた。学校行事では、感染症対策の対応を工夫しながら実施し、適切な人間関係の形成を行うことができた。学校生活面では、生徒指導上の問題で指導を受ける生徒、また特別な支援を必要とする生徒に対して、適切な対応支援を行ってきた。今後も継続して丁寧な支援を行ってきたい。			総合評価		B	

具体的項目	B評価の基準
服装・頭髪指導(基本的生活習慣の確立)	3回
街頭指導・校門での指導	街頭2回
交通安全講話等(交通安全意識の喚起と向上)	1回
長期休業前後の交通安全指導	5回
バイク実技指導(交通マナー・ルール・運転技術を学ぶ)	2回
地域の関係機関との連携	3回
校内巡視	必要に応じて実施する。(考査前後および長期休業後 ※50日程度)
生活の乱れからくる安易な遅刻回数	昨年度よりも減少
掲示物等による注意喚起や情報提供	有益な情報を、月1回を目標に提供する。
進路ガイダンス・進路学習デーの実施	各学年1回
進路適性検査・職業適性検査・作文添削・SPIテストの実施	各学年1～2回
職業意識の育成	LHR・学年集会等で適宜実施
「進路だより」の発行(情報提供)	合計で5回発行
	随時行う
	年1回の実施
	年5回

具体的項目	B評価の基準
全商ビジネス文書検定(3級取得)	合格率の向上
全商電卓検定(3級取得)	合格率の向上
全商簿記実務検定(3級取得)	合格率の向上
全商情報処理検定(3級取得)	合格率の向上
全商商業経済検定(ビジネス基礎3級取得)(マーケティング2級取得)	合格率の向上
全商情報処理検定(資格取得)	合格率の向上
ITパスポート試験(資格取得)	受験希望者への対応
全商簿記実務検定(資格取得)	合格率の向上
日商簿記検定(資格取得)	合格率の向上
日商販売士検定	受験希望者への対応
	随時行う
	実験・実習内容に取り入れる。
	1・2・3年生1回
	2年生1回
	演習を多く行う。生徒への呼びかけと希望者への補習を行う
	実験・実習内容に取り入れる。
	実験・実習内容に取り入れる。
	各単元につき1回以上
	各単元につき1回以上
	随時取り組む
	随時取り組む
	随時取り組む
	随時取り組む
	定期考査ごとに全学年に対し配付する。
	長期休業ごとに全学年で課題を出す。
	単元ごとに随時取り組む。
物質、生命、光と熱、宇宙	実験・実習・作業等を年間3回実施する
物体の運動、エネルギー、波	実験・実習・作業等を年間3回実施する
物質の構成、物質の変化	実験・実習・作業等を年間3回実施する
生物の特徴、遺伝子、内部環境	顕微鏡を使った実験を年間3回実施する。

具体的項目	B評価の基準
可能なら授業中にも指導する	各単元毎に小テストを行う
授業中に指導する	合格率25%
	随時行う
	随時行う
	インタビューテストや発表をする
陸上競技(瞬発力・持久力の向上)	長距離9時間、短距離6時間
新体力テスト(体力の向上)	全校生徒実施、1回
柔道(規範意識や相手を尊重する心を養う)	1年男子12時間・2年男子8時間実施
器械運動(安全面の配慮)	1年女子12時間・2年女子8時間実施
球技(チームプレーを通してコミュニケーション能力、リーダーシップの育成)	1年2種目、2年2種目、3年3種目
準備運動、ウォーミングアップ	ラジオ体操第1、ランニング5周、二人組柔軟
本時の目的・課題を明確に理解し、授業内容をノートにまとめる。確認プリントにおいて誤った知識・理解を修正する。	ノート提出(年3回以上)
〃	〃
被服製作(基礎縫い等)	8～10時間
調理実習(食品管理・栄養価の理解・調理技術の定着等)	5回程度
体験実習(保育校外実習・高齢者疑似体験等)	2回以上
各分野実習(住居模型作成等)	1回以上
人権教育(生徒に対しての人権教育)	1回
人権同和教育講演会	1回
人権同和教育職員研修会	4回
	多くの学校、学年行事を企画する
	学校行事に生徒を積極的に参加させる
	随時声をかける
	進路学習に取り組む
	人権同和教育をHRで取り組む
部活動の活性化を図る	部活動加入率を上げる
	出席率20%
	6月 体育祭100人
	年3回